

# 3・2・8号線 環境影響評価書について

2012年6月10日  
津田町1丁目 神尾直志

## 府中所沢鎌倉街道線 全長27kmを見て

～町田市役所鎌倉街道から小平328区間まで走ってみました～

### ■全体の印象

- ・町田市、多摩市は人口が少なく、主に山や荒野を切り開いて作った道路という印象
- ・町田市区間約2kmに、4車線拡張工事をしていて、今年の夏に終わる見込みのようであるが、立ち退き地権者は、国分寺、小平のように多くはないと想像しました。
- ・町田市の薬師台公園の東側の約2kmくらいを除くと、小平328号線を除いて、町田から、東村山の野口橋まで4車線開通となった。
- ・府中市の関戸橋から北側以降は、住宅が多い、人口密集地帯に入る。  
事業中の国分寺区間に入ると、計画地のほとんどが住宅か農地



**小平はわずか1.4km区間で、約220世帯も立ち退き(見解書105ページ)**

### ■鎌倉街道を使う知人へのヒアリング

- ・新袋橋交差点から小野路交差点まで綾部トンネル区間は、10年くらい前にトンネルができたそうで、渋滞が解消され、鎌倉街道 南北を車で移動しやすくなった。



**便利になれば、貴重な緑の回廊も、閑静な住宅地も失ってもいいのかな？**

## 環境影響評価全般について(1/2)

- 東京都 環境影響評価技術指針 抜粋
  - 第1章 技術指針の趣旨等
    - S55年の東京都の条例に基づいて
  - 第2章 第1 1(1)ア(イ)
    - 対象計画の案は、できる限り事業の実施による環境影響の回避若しくは低減又は損なわれる環境の代償が図られるようにするとともに、
    - 社会的要素及び経済的要素を踏まえ、採用可能なものとし
    - 計画の内容又は環境の保全のための措置が異なる複数の案を策定する



- 小平328号線は計画決定がS37であるため、同技術指針に沿っての検討がされていない。S37と、H23年では、環境の価値も基準も違う
- 事業者、環境影響評価審議会は、このギャップを埋める役割があると考えます。

## 環境影響評価全般について(2/2)

### 第3章 予測および評価の手法 5 調査等の手法の選定 (3) ア

予測の手法は、定量的な結果が得られるように定めるものとするが、定量的な結果を得ることが困難な場合又は計画の熟度が低く定量的な予測が困難な場合には、定性的な結果が得られるよう定めてもよい。



- 結果が定量的になっても、結果が定性的でも、環境影響評価の結論がすべて、「影響は小さい」という結論。
- 定量的な結果に対する評価が定量的でない。すべての項目で結論が決まっているように見えてしまい、疑問です。

例)

1. 樹林地 1.27ha → 0.51ha減少 (40%減少) (評価書案 8.7 P253)  
散策・昆虫採集、フィールド遊び 機能は維持される 影響は小さい
2. 樹林地内 228-300本の樹木を切る。全体604本(38%~50%減少)  
(評価書案 8.7 P260)  
玉川上水、樹林地合わせて 高木327本、低木154本 計481本伐採  
(評価書案8.4 P198)  
動物種および、動物郡種に多様性への影響小さい(評価書案 P221)

# 史跡 玉川上水について

- 本編P237 史跡玉川上水保存管理計画書(東京都H19.4)  
事業の必要性和史跡保護の必要性和の調和点を明らかにし 史跡及び水路機能への 影響が少なくなるよう最大限配慮する。

わずか200m東に同様の機能を持つ南北道路である府中街道が現存。  
最大限の配慮がなされていない。

- 史跡に指定している部分は、堀削を行わないため、文化財への影響は小さい。(P238)

史跡の価値に、周辺の緑道を含めた周辺環境も考慮すべきである。

# 自然との触れ合い活動

•1.27haから、0.51ha減少

現実には、東側の樹林地は、ごくわずかしか残らないため、実質的には、50%以下となる。

自然との触れ合い活動

ゲートゴルフ

プレイパーク

ツリークライミング

ほたるのタペ

昆虫採取

自然観察会・バードウォッチング

幻燈会

武蔵野美大によるアートフェスティバル

少林寺拳法など、武道・運動の練習

面積は減少しますが、既存樹木を可能な限り環境施設帯に残す計画です。工事の施工中および工事の完了後において、自然との触れ合い活動の場の規模は縮小されますが、利用者の多くが、「散歩・ウォーキング」等を目的として日常的に利用している場であり、散策・昆虫採集及び、フィールド遊び等の機能は維持され影響は小さいと予

本当でしょうか？



東側に残される部分は狭すぎて、自然との触れ合い活動できない。

評価書案 P124

# 景観



現状

完成後

注意)東京都の作成したモニタージュではありません。

「景観の連続性を配慮しながら、快適性や個性(地域の特性)の創出を工夫するとともに、玉川上水の景観と調和した街並み景観の形成を図ること」を満足する。 評価書案 P232

本当でしょうか？

# 代替案

東京都 環境影響評価指針及び、史跡玉川上水保存管理計画書に基づいて、環境影響評価を、再度やりなして、代替案を検討することを希望します。

例として  
現存する府中街道を改良する案

## 東京都のメリット

- ・環境影響評価がやり直しでも、用地買収交渉が減るため、全体コストが抑えられる。
- ・供用開始時期が早まる可能性高い  
(デメリット 右折、左折が各1箇所増える)

## 小平市のメリット

- ・樹林地、玉川上水など周辺の緑が守られる。
- ・史跡玉川上水緑道の分断は現府中街道の1箇所
- ・立ち退き市民が減る。  
(新しい立ち退き市民には、手厚い考慮を)



①青梅街道と府中街道のクランクの解消

②府中街道に右折レーンを設置する

③二つの対策でも不十分なら府中街道の拡幅それも3車線で時間により使い分け

国分寺328 事業中

拡幅工事中